

## 会議の概要

会議名	第2回（仮称）堺産業戦略懇話会
開催日時	令和3年11月11日（木）午後1時00分～午後3時00分
開催場所	さかい新事業創造センター[S-Cube]（堺市北区長曾根町130-42）
開催方式	オンライン開催
出席委員	宇佐川委員、北村委員、久保委員、鈴木委員、豊岡委員、西村委員

### 議題及び結果の概要

#### （1）開会

#### （2）堺産業戦略概要版について（事務局説明：資料4）

##### ○宇佐川委員

イラストは非常に分かりやすく、特段これを直さないといけないということはないが、一般の方が見て、自分自身がここに関わっているという印象を持ってもらえるような打ち出し方を今後展開されると思っている。内容についてもこれで結構だが、高齢者や中高生からも見てもらえるようなものにするすれば、情報発信の観点からは、誰でも分かる言葉を使う、文字数を極限まで減らす、空白を増やすということをやっていただいてもいいかと思う。

##### ○北村委員

全体的に懇話会での意見も集約されており、堺市で検討されているところが、力強く伝わってくる印象。イラストに関しても、視覚的にメッセージが伝わってくる。このままでも問題ないかと思うが、より堺らしさというものを付け加えるという意味で、このイラストが堺市であることが分かるグラフィックのアイコンなどが入っていると、より印象深くなりベターかと思う。

##### ○久保委員

概要版としては分かりやすくなっており、概ねこれでよいかと思う。戦略の進め方の話になるが、「インパクトある堺の産業が、未来を切り拓く」ということからすると、この戦略の行きつくところは革新だけではなく、地域とどのように関わり、社会がどれだけ豊かになるかということがゴールだと思うので、そういうゴールを見据えた形で、色々な連携が生まれるような進め方ができればよいと思う。

#### ○鈴木委員

前回からイラストも入ってきて、ぱっと見たときに、何となく伝わってくるものがあるのではないかと思うので、絵が使われているというのはよいというのが率直な印象。1枚の資料なので、情報を詰め込むという意味では、非常にコンパクトにまとまっていると思うが、実際に市民の方などがこれを目にされるときは、どうしても文字が多いものは読まれないというのが現実かと思うので、1枚の資料としては重要なところだけにして、文字数や漢字や英語を少なくしていかないと読んでもらえないのではないかというのが、一番気になったポイント。また、デザインについてはデザイナーとご相談いただきたいが、未来に向かうイノベーションの筒は透明になっていることで、各産業が交差している線の部分などが見えて立体的に見えづらく感じるところもあるので、この筒はもう少ししっかり見えた方がよいかもしれないという感想を持った。

#### ○豊岡委員

長期ビジョンが目ざす KGI が「事業従事者 1 人当たりの付加価値向上」となっているが、簡単な言い方をすると、堺市民の所得が上がっていくことを産業政策によって目ざすということと理解した。そうすると我々が目ざすものは、豊かな社会の実現ということだとすると、豊かさということをもっと強調してもよいのかなと思う。インパクトある堺の産業がどのような未来を切り拓くのか、それは豊かな未来ということなのだとすることであれば、目ざすべきゴールも見えてくるのではないかという風を感じた。

#### ○西村座長

今の時代は、経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさ、多様な人生を歩める豊かさなど、誰にとっても豊かなまちになっていくというのが目ざす道ということかもしれないが、施策としては産業・経済だけではなく福祉なども一緒に考えていく必要があるということかもしれない。経済主体も、企業、NPO、NGO、社会起業家など様々だと思うが、一般的には、産官学民だけでなく、金融と情報も重要な要素になるので、例えば、金融機関も地域を支える主体であるということが伝わるよう、銀行のアイコンをイラストに加えるのも一案ではないか。また、これは産業戦略であり、生活戦略ではないのでそこまでこだわる必要はないが、みんなが地域を支えていくという意味では、子どもやお年寄りなどのアイコンも多少あってもよいかもしれない。

#### ○鈴木委員

女性がもっと活躍してほしいというのが、今回の産業戦略の一部のメッセージとしてあることからすると、女性が働いて活躍しているということをもう少しきちんと示してもよい

かもしれない。イラストの中にすでに入っているが、男性、女性がやや分かりにくい印象も受ける。

#### ○宇佐川委員

女性のイラストに関しては、リーダーシップを発揮している職域や、今後中心的に活躍してほしいことなどに意識的に配置されているように思うが、そうした説明ができるようにするという対応がよいかもしれない。

### (4) 堺産業戦略素案、策定スケジュールについて（事務局説明：資料5、6）

#### ○西村座長

戦略5の女性就労は重要なキーワード。これは、経済政策だけではなく、社会福祉政策も関係する。イギリスでは、夜に子どもを預けて夫婦で外食ができるぐらいの社会制度が整っている。企業内保育所のような働く環境の整備もされている。行政としても縦割りではなく、経済政策・社会政策の両面からの視点が必要。

#### ○豊岡委員

木材工場団地では、今後の工場団地のあり方を検討するプロジェクトがあり、自社では子育て世代が多く、団地内の保育施設の整備を提案したが、他社では子育てが終わった世代が多く、受け入れられなかったことがある。これからは、潜在的に働きやすい職場づくりという意味では、保育所やデイケアセンターが近隣にあることが望ましいと思っている。市役所から、働きやすい企業づくりを進めまじょうと呼びかけていただけると、それぞれの企業が前向きに検討していくということもあるのだろうと思う。

#### ○鈴木委員

1点目は、各戦略の施策を、「継続して着実に取り組む主な施策」と「未来に向けて新たに取り組む施策」と整理しているのはよいと思うが、今までやってきたことを見直した上で2025年に向けて次の計画を策定するということからすると、これまでの活動をきちんとアセスメントした上で見直して、何がうまくいって、何がうまくいってなかったのかを踏まえて、今後継続して着実に取り組む施策をピックアップすることが必要だということ。内容をみると、なんとなくどれも重要だとは思いますが、これまでやってきたことがどういう結果を出しているか、また出せていないからこそ継続する必要があるといったことを示していると納得感があると思う。2点目は、サービス産業の生産性向上にも力を入れていくということだが、これまで製造業中心にやってきた堺市はサービス産業支援を行う自治体としては後発となるため、後発だからこそできることに戦略的に取り組むことができるのでは

ないか。サービス産業が様々な業種に関わっていることを理解してもらえよう取組を推進することが重要。

#### ○久保委員

8 ページの産業集積エリアの記載は、製造業の認識かと思うが、受け取り方によっては、産業というと商業なども含んでくる印象がある点の一つ気になった。10 ページに、企業が相互に「連動」しながらという表現があるが、関わり方は色々あると思うので、よく使われる「連携」の方が適しているように思う。次に戦略 3 に関しては、商店街の現状はかなり厳しい状況にあり、商店街や小売・商業の進行と活性化については、地域コミュニティということとの関係にもなってくるので、どちらかという戦略 2 のターゲットになってくる気もする。また戦略 4 の中百舌鳥地域のイノベーションの創出については、大阪府立大学との研究開発や、技術革新につながるような機能を強化することも重要。今後行政がいろいろ施策を出していく中で、実際に企業側がどういう形で活用できるかということが、このビジョンがどこまで浸透するかということに繋がってくると思うので、その役割としては商工会議所が担う役割が非常に大きいと認識している。併せて、産業は地域との密接な関係の中で、地域や市民を豊かにする使命を有することから、行政としては地域との連携を打ち出した施策が必要であり、堺の産業振興が今どのような方向に進んでいるかを市民に対しても周知し、理解を求めることが必要ではないかと考える。

#### ○西村座長

確かに、商店街の位置付けは、社会課題の解決という視点も今の時代は必要かもしれない。他方、事務局の話を聞いていると、ちょっと線引きがあり、商店街を経済組織体としてどう活性化していくかというところを意識しているのかもしれない。そうすると、商店街の機能拡充・強化など、そのあたりはもう少し具体的に、例えば、e コマースを活用しながらハイブリッドで商店街を活性化するか、IT 活用による物流強化などの話を具体的に入れていくなどもよいかもしれない。ここは大枠で書いてあるので、細かいことはまた戦略に落とし込んだ後になるのだと思うが、何をもって機能拡充・強化とするのかについてはよく考えていく必要がある。

#### ○北村委員

戦略全般を通じて、いずれの戦略についても今後その成果を実現していくにあたっては、域内外の人材の双方向のコミュニケーションがとても重要。丁寧なコミュニケーションは各事業者にとっても非常に重要だが、そうした地道な活動にはなかなか投資が行き届

きにくいというのが現状。そうした戦略的なコミュニケーション活動への投資という観点では是非踏まえておいていただきたい。それは例えば、戦略 2 の SDGs の趣旨をしっかりと汲んで取り組んでいる企業による自社内外でのコミュニケーション活動への投資に対しても何かしらのサポートがあるとよいという話にもつながる。戦略 3 の伝統産業のブランド化も、外とのコミュニケーションの切り口を様々検討する必要がある。例えば、ブランド化として産業のセクター別に考えるのではなく、刀であろうが、自転車のギアであろうが、アナゴの加工であろうが、加工技術の匠が集積しているというような、担い手にフォーカスするというコミュニケーションの方が伝わりやすいかもしれない。また戦略 4 については、若い将来世代が入っていけるような仕組みを是非お願いしたいが、グローバルな感覚をもって国際舞台で発信したりしている若者目線からも堺市が魅力的な存在であり、語れる場がある自治体になると素晴らしいと思う。

#### ○宇佐川委員

1 点目は、鈴木委員ご指摘のとおり、今回の戦略における継続的な取組と新しい取組に関して、特に継続的な取組については、今までのことをきちんと検証して評価した結果として実施していくということは、どこかで触れた上で伝えていくのは重要かと思う。2 点目は、今回の戦略の 1 から 5 については、相互の繋がりをもう少し出した方がいい。各戦略に共通して大切にしているスタンスである、様々なステークホルダーと連携して取り組むパートナーシップ重視の姿勢や、一過性ではなく伴走型かつ継続型の施策により課題に対して、失敗があることを前提としてトライし続けるということが伝わるようなものになっているとよいと感じる。3 点目は、女性雇用に関して、また改めて担当部署と議論したいが、ご本人の多様性、志向性、本人特性、ライフイベント、家族環境などにも非常に影響を受けやすいため、個別に一步一步掘り下げながら取り組むべきテーマ。また、雇用については産業政策以外に、社会制度はもちろん重要だが、その根っこにある世の中の当たり前の慣習がすぐハードルになっており、そうしたことを突破できるような取組を、企業や組合のみならず、堺市、商工会議所などとともに、上手に仲間を作って一緒にできるとよいと思う。

#### ○西村座長

懇話会はこれで終わりだが、戦略に落とし込んで実際に動くときには、今回の委員の皆様にご助けをいただくこともあるかと思うので、その時は是非また関係者としてお力を貸していただければ幸い。

#### (5) 閉会